

## 第 12 章 財政赤字の現状と財政構造改革の進め方

### 1. 減らない財政赤字、累増する政府債務残高

#### (1) 財政赤字の現状と主要国との比較

一般政府：国民経済計算（SNA）の概念

中央政府・地方政府・社会保障基金

( ): 国の一般会計、特別会計

( ): 地方自治体（都道府県、市町村）

( ): 公的年金、医療・介護保険、雇用保険など社会保障

財政赤字 = 一般政府全体の投資超過

中央政府の大幅赤字 一般政府全体が抱えた問題が集約されている

#### (2) 1980 年代における日本の財政再建をどうみるか

第 2 次石油危機後の 1980 年代前半

( ) の到来に伴う名目成長率の加速による税収の自然増効果

資産価格の高騰を背景に金融・土地取引関連の税収増や民営化収入も巨額に達したこと

歳出構造の効率化は先送り

#### (3) 構造的側面の大きい財政赤字

2003 年の財政赤字（名目 GDP 比 8.0%）のうち、9 割以上は構造的赤字

構造的赤字：( )

構造的赤字 = 利払費 + 構造的プライマリー収支

#### (4) 弱まった税収基盤

所得税の減税、法人税の税率引き下げ

中期的には ( )

## 2. 持続可能ではない日本の財政

### (1) 財政安定化の条件

プライマリー収支（基本的財政収支）：( )

次の式を満たせば、政府債務比率が上昇が止まる。

(必要プライマリー収支の名目 GDP 比率)

$$\frac{\text{必要プライマリー収支}}{\text{名目 GDP}} \quad (\text{長期金利} - \text{名目成長率}) \times (\text{1期前の政府債務残高} / \text{名目 GDP})$$

財政再建を先送りすればするほど、将来の痛みは大きくなる。

### (2) 財政安定化にはほど遠い日本の現状

## 3. 欧米諸国の財政再建

### (1) 1990年代に財政再建を達成した欧米諸国

構造的赤字の削減成功が財政再建を実現

### (2) 欧米諸国の財政再建手法

財政赤字削減の目標値設定 (EU、米国、カナダ)  
政府部門の全面的見直し (各国)  
財政再建の実効性を担保する工夫 (カナダ、米国、イタリア)  
年金・医療制度改革 (イタリア・ドイツ・スウェーデン等)  
地方分権の推進 (米国、カナダ等)  
行政改革 (カナダ、イタリア等)

### (3) 欧米諸国の財政再建に学ぶもの

長期的再建プランと強い ( )  
インフレ沈静化の中で、財政バランスの改善  
( ) による、歳出の徹底した効率化

#### 4．財政構造改革の基本戦略とシナリオ

##### (1) 財政構造改革の進め方

歳出の削減と国民の負担増の組み合わせの必要性  
どのくらいの期間かけるかを検討するのも重要

##### (2) 2つのシナリオ

「経済再生シナリオ」消費税率の段階的引き上げ 2007年から11年まで毎年1%  
2012年にプライマリー収支の黒字化、政府債務残高は11年から低下  
「緩やかな改革シナリオ」消費税を上げず、歳出を削減  
プライマリー収支は赤字、政府債務残高も1200兆を超える

#### 5．地方財政立て直しと地方分権化の推進

##### (1) 三位一体改革の評価

地方交付税の見直しに遅れ

##### (2) 地方分権化の条件

三位一体改革への課題は多い。  
地方自治体の意識改革の必要性  
広域連合の必要性  
中央政府の行政改革を進める必要性が一段と高まること

#### キーワード

財政赤字 政府債務 一般政府 構造的赤字 プライマリー収支  
財政構造改革 三位一体改革